

P1734-1

異能日記 その後 3

もりしらいと
森下礼智さん(16) 第一学院高校(茨城県高萩市)2年

(前回は朝日小学生新聞2019年5月15日付で紹介)



3DCGの作品を作っています



表彰されました
VR系のデザインコンクールで
ご本人も本人提供

多様性への理解願いたい経験談執筆

僕が今、夢中になっているのは、3DCG(3次元コンピューターグラフィックス)の作品制作と、誰もが使いやすい調理道具の研究、本の出版に向けての執筆です。

僕は元々、ディスグラフィア(読むことには問題がなく、手で書くことだけが難しい症状)があります。母の勧めで7歳くらいから授業でノートの代わりにPCやタブレットを使い始めました。それがきっかけでプログラミングなどPCでの操作が大好きになりました。

自分のように何か苦手なことがある人を道具で助けられないかと研究をスタートしたのも小学生の頃です。中学時代は、音を聞くことと記憶の関係について研究していました。この研究は、専門家(メンター)の助言を受けられる日本科学協会のサイエンスメンタープログラムに採択されました。実験を終えて研究発表会で成果を発表し、特別賞を受賞したときはとてもうれしかったです。

研究では、仮説で思っていたことを実際に実験していくと、最初に考

えていた通りの結果が出ないことが結構あります。がっかりすることもあるのですが、予想とは違う結果から思いもかけないような発見をすることもあり、そこが楽しいと感じられるところでもあります。

出版については、16年間のできごとを振り返りながら書いています。僕みたいな悩みを持つ子どもたちが

苦手なことで苦しまなくてもいい社会になることを願って、多様性について自分の経験を通して考えたことなどが中心です。

僕が今あるのは、多くの人の支えがあったからこそだと思っています。社会の発展のために何ができるのかを考え、これからも具体的に行動していきたいです。

異能とは

つきぬけた才能を持つ人を「異能」と呼びます。異能を支援するため、ソフトバンクグループ代表の孫正義さんが「孫正義育英財団」を立ち上げました。今回のシリーズでは、これまで紙面で紹介した若き異能が「その後」を語ります。

題字デザイン・池田圭吾